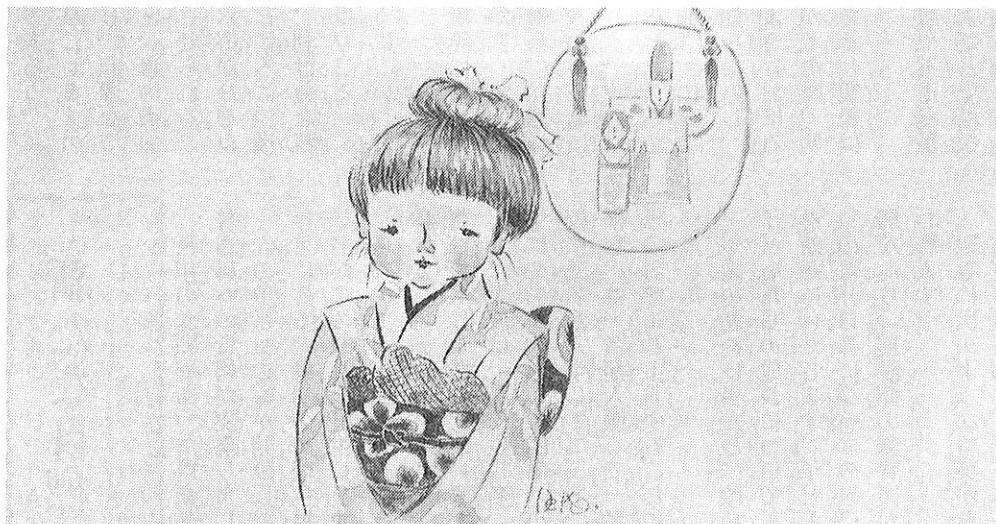


光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／(株)ドモン企画



春のおまつり

完全なものが来た時

(第一コリント十三・十)

福島 勲

年度末を迎え、近く受難週、復活祭を迎えるとする時、収支のバランスのとれないわれわれの人生、またこの世の決算はどうなるのか、考えさせられる。教会は、神が予言者や使徒やキリストを通して語られた聖書に則つて説教し、心理学者かのようにキリストの意志を解説する。

註解書や先人達の信仰を学んでより忠実に、キリストの御旨に近づこうとして説きあかされる。

それでいて、時になお果して

この時代のものには縁起物語

がある。

神の愛の業は、桁はずれの大事件で理解し難いことである。しかし、わが国にも、こうした苦しむ神、よみがえる神の思想があった（和辻哲郎・埋もれた日本）。室町時代は文化的に華麗な一時期である。一条兼良

など啓蒙的著作をして民衆に道義を説いた。

インドの王に仕えた婦人が妬が多いが、その中の一つに、神が苦しみ、神がよみがえる話がある。

今までなくキリストの死

不敬虔なわたしには、こんな そうかなと数かずの疑問が残る。 イスラエルには、キリストが 升天したという地点の石に、大きいキリストの足跡というのが あつた。

それでいて、時になお果して そうかなと数かずの疑問が残る。 イスラエルには、キリストが 升天したという地点の石に、大きいキリストの足跡というのが あつた。

印度の王に仕えた婦人が妬が多いが、その中の一つに、神が苦しみ、よみがえて育児の業をなす。これが神格化されがめられる。

第一、神がわたしたちのため に苦しまれた。わたしたちのた

めによみがえられた、といった ものは見るに耐えなかつた。 聖書にも理解や納得のいかな いところが多くある。

この世の矛盾や権力の抑圧か

ら脱して生きる道を見出そ

う。

するには自然の情であろう。

世の中にはあまりにも多くの解せないことがあり、悲惨なこ

と、腹立たしいこと、事の裏面を知らされて失望させられることが多い。聖の中に俗がひそみ、愛と平和を唱えるところに、憎しみと争いが宿る。利は義を踏みじつて不義がはびこる。

伝道の書の言うように、いつさ

いは空なのか。

信仰も年齢や環境等によつて

その教理の関心点が変つてくる。

今まで比較的に安易に見過し

てきた、キリスト教の終末論に

注意が向けしめられる。

完全なものが来たとき、いつ

さいのものが明らかにされる。

今は部分的により知らないし、

昔の金属性の鏡のようにおぼろ

かれて裁かれる。他人ごとではない

。自分自身も裁かれる。恐ろ

しいときである。したがつてわ

れわれにはキリストを信じる以

外に、この人生のマイナスを補

うすべきはない。

長年の念願であつた県立高校

普通科への合格が実現しました。

光の子どもの家が開設して八

年にして、最初の高校生男子

二名がこの四月に誕生します。

多くの方々のお励ましお支え

に心から感謝とお礼を申し上げ、

喜びを共にしたいと思います。

九二年度は、高校生二名、中

学に一名が入学して四名、小学

校に三名が入学して二三名、幼

稚園へは一名が入園して一名の

三〇名でスタートすることにな

りました。

年度の初めに当たり、改めて

子どもたちの成長について思

いを新たにいたします。子どもた

ちの自分自身についての自己理

解があり、施設側の養育観が問

われます。

このとき一切の悪や不正が暴

かれ裁かれる。他人ごとではな

い。自分自身も裁かれる。恐ろ

しいときである。したがつてわ

れわれにはキリストを信じる以

外に、この人生のマイナスを補

うすべきはない。

たものとなつた。」（同二・七）

「私たちは神の作品であつて、

良い行いをするように、キリスト・イエスにあつて造られたの

えたとは思つていない。ただこ

の一事を努めている。すなわち、

後のものを忘れ、前のものに向

かつて体を伸ばしつつ、目標を

目ざして走り、キリスト・イエ

スにおいて上に召してくださいさ

るのである。」（ペリピ書三・十）

神の賞与を得ようと努めている

のである。

ト・イエスにあつて造られたの

たのことを努めている。すなわち、

かかつて体を伸ばしつつ、目標を

目ざして走り、キリスト・イエ

スにおいて上に召してくださいさ

るのである。

兄弟たちよ、私はすでに捕ら

け替えのない「人格」を育てな

ければなりません。

私は、これらの課題を、施設

の子どもの「文化」を育てる視

点で捉え始めています。神から

与えられた「いのち」が、神に

喜ばれる自己実現の養育となつ

ていいかどうかもあります。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

えのない神の家族の構成員とし

て位置づけることを意味します。

新たな目標

施設長 今関 公雄

と表現しています。

このことは施設側の養育觀に

も問い合わせがなされましよう。

つまり、単に入所児への身体監

護的養育に止まつてはならない

のです。確かに、社会的自立が

指向され、社会性・道徳性・人

間関係能力などを育成すべきで

す。しかし、これら目に見える

社会適応能力の育成と共に、掛

け替えのない「人格」を育てな

ければなりません。

私は、これらの課題を、施設

の子どもの「文化」を育てる視

点で捉え始めています。神から

与えられた「いのち」が、神に

喜ばれる自己実現の養育となつ

ていいかどうかもあります。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

えのない神の家族の構成員とし

て位置づけることを意味します。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

えのない神の家族の構成員とし

て位置づけることを意味します。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

えのない神の家族の構成員とし

て位置づけることを意味します。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

えのない神の家族の構成員とし

て位置づけることを意味します。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

えのない神の家族の構成員とし

て位置づけることを意味します。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

えのない神の家族の構成員とし

て位置づけることを意味します。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

えのない神の家族の構成員とし

て位置づけることを意味します。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

えのない神の家族の構成員とし

て位置づけることを意味します。

私たちは、しばしば社会的尺

度というモノサシで子どもを計

り、固有のタラント（神からの

才能）を発見できずにいるので

はないでしょうか。

このことは、おそらく、未熟

な人間としての子どもと、いう見

方の向こうに、神の子・光の子

としての尊厳を持つ人格保有者

として捉え、神の作品で掛け替

生まれる前から、望まれてい
たかどうか、生まれるとその物
理的精神的環境の善し悪し、長
じては与えられる訓練と教養の
差、成熟し、老いても引きずり
続ける血縁という関わり・・・。
光の子どもの家は、与えられ
た条件の中で、可能な限り△普
通の家▽に近い建物と、養育形
態にしているとは言つても、元
々家庭そのものとは似て非なる
ものであることは当然である。

子どもたちが学校や友だち関係などの交わりの中で、自分の生活している状況と異なる場面に立ち会うことことが重なる。何故なのかはうつすらと覚えていても、もどかしさを感じながら吹つ切れない疑問を自分の生活場面にもち始める。早い子どもで後宮春子は、四年生から五年生にかけて、集団への不適応や人間関係でパニック状態になることが多かつた。

になどを伝えるようにしてきた。そんな時に、兄もそうなのだが、「自分が何でここで生活しなければならないのか」という疑問が伺え、兄は誕生日に一家が欲しいと言った。

この兄妹は、飯能市の比較的裕福な資産家に生まれ、父が祖父から受け継いだ土地を利用していく不動産業を始め、かなり手広く順調に展開していく。行きつけのクラブで知り合った母と結婚し、彼らが生まれたのであるところが、母に経済感覚が乏し

らしていて、叔父さんたちもしつかり生活している。夏休みなどの帰省では、自分の部屋がそれぞれあって、何の不自由もなく暮らすことが可能なのに、自分は光の子どもの家にいると言つて、それが我慢ならない大きな不満が、ついでに、条理であつた。

昨年五月、些細な事で春子はパニックになり、祖父宅に帰ってしまう。心配した兄が探すうち、家に帰つたことを知り、家まで迎えに行つたことで新しい展開が始まる。（以下次号）

真 実 告 知

舊原哲男

卷之三

1992年3月10日 第41号 召しにふさわしく歩け

いたことなどを、自分の取り組みと周りのあり方まで、職員側の徹底した反省がなされます。私はとつて関係創りの最も困難な山城兄弟についての最初の反省文は、自分でも情けなくて、子どもに申し訳なくて。。。担当して三年、その間、「信頼」すること、温かい関係を創つていく中で、出会う人との関係がどんなにかけがえがないものであるかを、実感できるようにと祈りながら関わることを目指してきていたのに、何も出来ていないという虚しい思いを確認するだけでした。自分が本当の意味で担当者になり切れていないのです。

しようか。それなのに、子どもたちは成長を重ね、殆ど人に迷惑をかけるようなことをする事はない。このことに感謝すらしていない私は一体何をしてきたのか・・。こんなことを直接関わっている佐藤家の職員三人で再確認することが出来ました。

勉強が出来なくてもいい。何をしなくてもいい。一緒にいられることが喜べることが出来さえすればいいではないか、と。

子どもを愛することが私たちの仕事。そのことの難しさを感じます。私と兄弟との距離も、お互いの努力と、周りからの励ましや忠告を受けながら縮めていくしかないのです。

した。当日あれこれ準備をし
いる姿を見ただけで充分嬉し
つたのに、シャイな弟の滋も
んなに交じつて劇をしてくれ
した。人前に立つことが苦手
滋が、「ウキー！ウキー！」
狼を演じていたのです。そん
みんなのお祝いを受けて胸が
がるような思いでした。もち
ん、私なんかのために、忙し
時間を割いて、本当に会え
ことを喜んで下さる、みんな
笑顔に心から感謝しました。
会が終わって部屋に戻ると、
郎が一人いて、もじもじしな
ら側に来て、「これ、さつき
げるの忘れた・・・」と、小
な紙包を差し出すのです。

担当している子どもたち一人一人の養育の計画をつくります。私のグループは、中学生が二人と小学生三人で、みんな二桁の年齢で、とても感じやすい季節の子たちです。私がちょっと注意しても、「すつごくこわい声で、ぼく、涙が出そうになつたよ。」という子どももいます。子どもに変わることを求めるれていることを痛感することがしばしばですが、どのように変わることが最も適切なのかさえはつきりしないことが多く、迷うことだらけの私です。

育ちゆく子らと

秋本光代

二月十日、一日遅れの私の誕生日の祝をしていただきました光の子どもの家の誕生会は、

何と！これこそ、何と！なのです。前の日の教会学校の分級で、七宝焼をしたのですが、そ

生まれる前から、望まれてい
たかどうか、生まれるとその物
理的精神的環境の善し悪し、長
じては与えられる訓練と教養の
差、成熟し、老いても引きずり
続ける血縁という関わり・・・。
光の子どもの家は、与えられ
た条件の中で、可能な限り△普
通の家▽に近い建物と、養育形
態にしているとは言つても、元
々家庭そのものとは似て非なる
ものであることは当然である。

子どもたちが学校や友だち関係などの交わりの中で、自分の生活している状況と異なる場面に立ち会うことことが重なる。何故なのかはうつすらと覚えていても、もどかしさを感じながら吹つ切れない疑問を自分の生活場面にもち始める。早い子どもで後宮春子は、四年生から五年生にかけて、集団への不適応や人間関係でパニック状態になることが多かつた。

になどを伝えるようにしてきました。そんな時に、兄もそうなのだが、「自分が何でここで生活しなければならないのか」という疑問が伺え、兄は誕生日に一家が欲しいと言った。この兄妹は、飯能市の比較的裕福な資産家に生まれ、父が祖父から受け継いだ土地を利用していく不動産業を始め、かなり手広く順調に展開していました。行きつけのクラブで知り合った母と結婚し、彼らが生まれたのであるところが、母に経済感覚が乏し

らしていて、叔父さんたちもしつかり生活している。夏休みなどの帰省では、自分の部屋がそれぞれあって、何の不自由もなく暮らすことが可能なのに、自分は光の子どもの家にいるとすることが我慢ならない大きな不条理であった。

昨年五月、些細な事で春子はパニックになり、祖父宅に帰ってしまう。心配した兄が探すうち、家に帰つたことを知り、家まで迎えに行つたことで新しい展開が始まる。（以下次号）

真 実 告 知

雪原
哲男

卷之三

1992年3月10日 第41号 召しにふさわしく歩け

いたことなどを、自分の取り組みと周りのあり方まで、職員側の徹底した反省がなされます。私はとつて関係創りの最も困難な山城兄弟についての最初の反省文は、自分でも情けなくて、子どもに申し訳なくて。。。担当して三年、その間、「信頼」すること、温かい関係を創つていく中で、出会う人との関係がどんなにかけがえがないものであるかを、実感できるようにと祈りながら関わることを目指してきていたのに、何も出来ていないという虚しい思いを確認するだけでした。自分が本当の意味で担当者になり切れていないのです。

たちは成長を重ね、殆ど人に迷惑をかけるようなことをする事はない。このことに感謝すらしていない私は一体何をしてきたのか・・・。こんなことを直接関わっている佐藤家の職員三人で再確認することが出来ました。

勉強が出来なくてもいい。何をしなくてもいい。一緒にいられることが喜べることが出来さえすればいいではないか」と。

子どもを愛することが私たちの仕事。そのことの難しさを感じます。私と兄弟との距離も、お互いの努力と、周りからの励ましや忠告を受けながら縮めていくしかないのです。

した。当日あれこれ準備をして、立つことが苦手な滋が、「ウキー！ウキー！」と狼を演じていたのです。そんなみんなのお祝いを受けて胸が塞がるような思いでした。もちろん、私なんかのために、忙しい時間を割いて、本当に会えたことを喜んで下さる、みんなの笑顔に心から感謝しました。

担当している子どもたち一人一人の養育の計画をつくります。私のグループは、中学生が二人と小学生三人で、みんな二桁の年齢で、とても感じやすい季節の子たちです。私がちょっと注意しても、「すつごくこわい声で、ぼく、涙が出そうになつたよ。」という子どももいます。子どもに変わることを求めるれていることを痛感することがしばしばですが、どのように変わることが最も適切なのかさえはつきりしないことが多く、迷うことだらけの私です。

育ちゆく子らと

十二

二月十日、一日遅れの私の誕生日の祝をしていただきました光の子どもの家の誕生会は、

何と！これこそ、何と！な
です。前の日の教会学校の分級
で、七宝焼をしたのですが、そ
の時彼が作つたたつた一つの作
品のペンダントでした！。

「こんな身勝手な私なのに、
ありがとう！」と言おうと思つ
ても言葉にならず、おまけに自
分が恥ずかしくて・・・とつき
にはどれだけ嬉しかつたかを伝
えることが出来ませんでした。
これから、新年度に向けて、
担当している子どもたち一人一
人の養育の計画をつくります。
私のグループは、中学生が二人
と小学生三人で、みんな二桁の
年齢で、とても感じやすい季節
の子たちです。私がちよつと注
意しても、「すつごくこわい声
で、ぼく、涙が出そうになつた
よ。」という子どももいます。
子どもに変わることを求める
れていることを痛感することが
しばしばですが、どのように変
わることが最も適切なのかさえ
はつきりしないことが多く、迷
うことだらけの私です。

**日
誌
抄**

十二月一日

一月末日まで

- 十二月一日 食堂には大きなクランツ、各玄関にはリースが飾られて第一アドヴェント。
- 宮代町の栗原さんいつものお励まし、感謝。
- 東大宮教会岩崎さん衣類を。
- 三日 ドルコ大使館で在日大使などのご夫人たちにクリスマスページントを小学生二名と職員十名が。大好評。
- 東邦音楽大学の古賀詠子さん、学習指導のヴァオランティアに。
- 八日 第二アドヴェント。東海林悦子、山野智子、井上まゆみのみなさん七名が。今年もハーブ、フルート、コントラバスの演奏などで讃美礼拝。
- 十三日 中学三年生の三者面談。高校進学へ向けて最後のツメが始まる。他の人の伸びが二人の頑張りを超える成績は落ちた。四年生半ばの入所から通学を始めた彼らの努力は・・・。
- 十四日 家庭訪問。一人でも多くの子どもたちの楽しいお正月

月帰省の実現を願つて。

十六日 竹下由布子先生クリスマスページントの歌唱指導。

十七日 中央児童相談所の職員と情報交換と養育の協議。

- 道目の針谷氏が開設以来企画の手打そば会を大利根剣友会のみなさんと。ありがとうございます！
- 二三日 町内の籠宮東地区婦人会長と役員の方々が今年も沢山のお励ましを。感謝。
- 二四日 クリスマス・イヴ。一緒に食事後キヤンドルサーヴイスを捧げる。夜中にはお待ちかねのサンタクロースがよい子たちにどうぞ。贈り物を。ご協力に感謝。
- 二五日 クリスマスマス。意味を伝えながら練習してきた聖誕劇を礼拝として捧げ、祝会はケンタウロスと久喜高校のみなさんの合唱と交換プレゼント。入りきれないほどのお友だちや東大宮教会や家族の方々と。
- 二六日 不動岡誠和高校の職員の方々の贈り物を中島先生が。
- 二八日 お餅つき。谷本先生と中島先生もおいでになつて。
- 二九日 帰省開始。お父さんや

お母さんとのお正月を

三一日 剣友会越年稽古。夜十一時から二時間。メン！ドー

- 一九九二年一月一日 筑波山で初日の出。残っている子とともにたちとここで子どもと一緒に年越の父母たちと全職員で元旦礼拝。お節の食事。お年玉。花保母からディズニーランドのお年玉。夢の一日。
- 四日 お正月気分を吹っ飛ばし三学期も頑張ろう会。北畠荒巻さんも駆けつけて。
- 六日 剣友会寒稽古。一週間、毎朝五時に起床して。
- 八日 三学期始まる。息白く。
- 十四日 この頃から高校受験のブレッシャーに負けてか特に匠が学校や家で不安定。トラブル続き、対応に苦慮。
- 二九日 県共同募金会へ補助申請の駐輪場事業の現地調査。
- ☆ ☆ ☆
- 四〇号に誤記がありました。“お詫びして訂正します”
- 一頁下段十九行目“一人でもよい”は“比利でもよい”
- 二頁上段二十行目“文学的數字”は“天文學的數字”に訂正。

**反
射
光**

☆三月六日は県立高校の合格発表の日でした。

- 我が家の二名の受験生も無事合格することができました。たくさんの祈りやお励ましを心から感謝します☆次々と合否を気遣う電話を頂き、夜には学校の先生やボランティアで関わつて下さいました。お祝い会は盛大になりました。小・中学の九年分の学習をここへ来てからの五年間で何とか間に合われた彼らの頑張りに大きな拍手☆一方、私たちの力だけでは決して成し遂げられなかつたこの事を、多くの皆さんに支えられて乗り越えられたことをしみじみ思うのです☆この喜びを感じて下さる大勢の方々を、彼らが宝物と感じ、実り多い高校生活を送れるよう祈ります☆彼らの後に毎年続く子どもたちの群れ☆望んでんでいたその時が現実になりました☆三年後から、視野を持つた社会人が続いて出発できるよう祈りつつ励みます。更なる、ご支援を！（なお）